



誰もが受け入れられる教育は、すべての子どもが学校に通い、勉強し、生きるために必要なスキルを育むための公平な機会を得る最も有効な方法です。それは、障がいのある子どもたちや言語の少数民族といった伝統的に疎外されてきた子どもたちが同じ教室で学ぶ機会を持てる教育です。異なる背景を持つ子どもたちが1つの教室に集まることで、互いに成長することができます。

誰もが受け入れられる教育を実現するためには、研修を受けた教員の配置や適切な校舎・教材の提供だけではなく、障がいのある子どもたちを取り巻く環境において、一人ひとりが正しい知識を持って偏見や差別をなくさなければなりません。そして、広く批准されている国際条約である「障害者権利条約」に則した法や政策作り・改善が必要不可欠です。



イスフくんの物語



イスフくんは10歳で罹った髄膜炎が原因で、思い通りに体を動かすことも話すこともできません。学校に通いたいと願っていたイスフくんでしたが、障がいのある子どもを受け入れる体制が整っていないことを理由に入学を断われてしまいました。同級生が学校で勉強している間も、イスフくんは家で独りぼっちでした。

何とかイスフくんを学校に通わせたいと考えた母親のアミナタさんは、やっとの思いでユニセフが支援している「誰もが受け入れられる教育」プログラムに辿り着きました。北東部の都市ドリのプチ・パリ小学校で導入されているプログラムです。19人の障がいのある子どもたち(うち11人は女の子)を受け入れているこの小学校にイスフくんも入学することができたのです。

プチ・パリ小学校には「誰もが受け入れられる教育」の研修を受けた6人の教員がいます。「研修では障がいのある子どもをどう受け入れ支えればよいか、その子どもがどうすれば受け入れられたと感ずることができるかを学びました。改善点はまだまだありますが、非常に大きな助けとなっています」と校長先生は話します。

現在イスフくんは11歳。入学以降、毎朝友達がいすフくんを迎えに来て、学校まで車いすを押してくれます。違いを認め、必要な時に手を差し伸べてくれる友達と一緒に学び成長しています。イスフくんは少しずつ話したり、動いたりできるようになっています。車いすなしで歩こうとさえします。努力するイスフくんを見て両親はとても誇らしく感じています。「息子は本当に変わりました。病院で働く保健員になりたいという夢を聞くと本当に嬉しくなります。息子は必ず実現できると思っていますよ」

ブルキナファソでは8万人の障がいのある子どものうち、27.4%しか学校に通っていません。ユニセフはイスフくんのように障がいのある多くの子どもたちが教育の機会を持てるよう支援活動を続けていきます。

※名前は仮名です。



写真: 上より©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figula, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Horil, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Horil
 中面写真: 上部左より©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figula, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Horil, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Rouamba, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Horil, ©UNICEF/Burkina Faso/2019/Horil

発行日：2020年4月1日
 発行者：公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

☎ 0120-88-1052 (通話料無料) 【受付時間】 平日9:00~18:00

ホームページ www.unicef.or.jp